

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和6年度第1回益田市総合戦略審議会
開催日時	令和6年6月25日（火）14：00～16：30
開催場所	益田市立図書館2階視聴覚室
出席者	○出席者 〔審議会委員〕 竹内直実会長、大屋剛副会長、高田翼委員、澄川聡美委員、杉本渉委員、坂根愛子委員、藤原眞砂委員、田中麻里委員、佐々木貴志委員 〔事業担当課〕 DX推進課 岩井課長、岩田主査 危機管理課 堀本課長 産業支援センター 松本所長 観光交流課 城市課長補佐、島地主査、見川主任主事 教育総務課 齋藤課長 学校教育課 田原課長 協働のひとづくり推進課 岡崎課長、中島課長補佐、田淵主査 文化振興課 田中課長、田原課長補佐 〔事務局〕 石川政策企画局長、田原政策企画課長、堀江総合戦略室長、吉田主任主事 ○欠席者 〔審議会委員〕 重親政継委員
議題	1「令和5年度企業版ふるさと納税活用事業」の検証について 2「令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業」の検証について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121

審議経過

1. 開会 ○挨拶 ○新任委員紹介 ○資料説明 ○会長・副会長の選任	
2. 審議内容	
(1)「令和5年度企業版ふるさと納税活用事業」の検証について	
事務局からの説明（資料1） ○「令和5年度企業版ふるさと納税活用事業」の検証について ・令和5年度は益田市が作成した地域再生計画「益田市・まち・ひと・しごと創生推進事業」に基づき、16事業を実施した。 ・それぞれの事業について、担当課から取組内容や成果、今後の事業展開について説明を行う。 その後、委員に質問・意見を出してもらう。	
協働のひとづくり推進課	①ひとづくり推進事業 ②市内高校連携事業 ③サイクルスポーツ振興事業 ④萩・石見空港マラソン全国大会開催経費 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料1のとおり説明。
委員	①について ひとづくりに関する取組については効果を上げてきていると感じるが、意識

	変容の指標で令和 5 年度実績が令和 4 年度実績より下回っている理由を確認したい。 また、今後の事業展開の中で、効果的な事業実施を検討とあるが、現時点で具体的なものがあれば教えていただきたい。 ②について 市内 4 高校の魅力を小中学生に発信する取組で、成果として、小中学生にどんな効果・影響が出ているか教えていただきたい。
協働のひとづくり推進課	①について 指標の実績が前年度から下回った明確な理由を示すことは難しい。平成 22 年度から同様の調査を行っており、当初は 20% 台だった点、調査対象者が毎年変わること増減が発生する点を踏まえると、今回の減り幅は、許容範囲内と捉えている。 また、事業展開について、ライフキャリア教育に関する取組がいくつかあるが、その取組同士の連携が出来ていないため、各取組・プログラムを繋げていきたい。 ②について 子ども全体の人数が減少していることもあるが、成果としては、入学者の定員割れを起こしている状態である。 未来の担い手コンソーシアムを結成し、経済界や高校も含め、多様な方々に参加していただいている。この大きな枠組みの中で子供たちの支え方や育て方について話し合っており、そうしたところと連携して、市内 4 高校に目を向いてもらえるように進めていきたい。
委員	①について 「カタリ場」がもっと広がれば良いと思う。子どもが小中学生でないと、ほとんど分からないのではないかな。 ③について 自転車購入とあるが、通常時も借りることが可能か教えていただきたい。
協働のひとづくり推進課	①について 「カタリ場」については、今後商標の関係から「対話+」として展開していく。集客については、各学校の連絡網、公民館からの情報発信、8 月開催のひとが育つまち夏フェスを活用して、広く周知していく。 ③について 現在 32 台、市民体育館にあるスポーツ協会が管理している。多くの方々に使っていただけるような企画を展開できるよう依頼していく。 また、観光協会ではレンタサイクルも展開しているので、自転車に触れ合う機会を更に広げていきたいと考えている。
委員	①について 「対話+」について、地域によって人数や地域の方の固定化により、きつかけ格差や固定の人だけと話をするという状況が懸念されるが、新たなきつかけに関する取組はあるか教えていただきたい。
協働のひとづくり推進課	人の流動性がない地域において U I ターン者との対話や起業されている方との対話など、アレンジが必要だと我々も考えている。 具体的な例で、「農業版対話+」といったものがあり、テーマを絞った形で取り組んでいるところもある。
委員	③について サイクルスポーツに関しての将来的な目標を教えていただきたい。
協働のひとづくり推進課	当面、2030 年の国スポを目指して、楽しむサイクリングから競技としてのサイクリングを推進できるよう進めている。
委員	①について 「対話+」に私自身、参加し、すごく良い活動だと感じた。一方で地域の方の負担感について感じる場所もあり、そうした点にも目を向けながら行っていけたら良いのではないかなと思った。

委員	①について 「対話+」について、人数的な参加割合を教えてください。
協働のひとづくり推進課	人数的な割合については算出できていないが、学年を絞って全ての学校で実施している。
文化振興課 (⑤～⑦) 教育総務課 (⑧)	⑤歴史民俗資料企画展示事業 ⑥雪舟の郷記念館管理運営事業 ⑦柿本人麿没後 1300 年記念事業補助金 ⑧学校教具・遊具更新事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料 1 のとおり説明。
委員	⑦について イベント来場者数の県内外の比率を教えてください。
文化振興課	実行委員会が行っているもので、県内外の比率については実行委員会へ確認しておらず、回答ができない。
委員	今後も柿本人麿に関する事業を行っていくのであれば、そういった点の分析をすることで、更なる交流人口の拡大が期待でき、またアプローチの仕方も変わってくるかと思う。
委員	⑦について 今後の事業展開について教えてください。
文化振興課	ひとまるフェスタのように各団体が取り組んでいく予定。
委員	各団体が行うことは良いが、観光部門と連携して一体的に情報発信するなどの取組が必要だと感じる。そうした取組を通じて、交流人口の拡大に繋がってほしい。
委員	⑤⑥について 文化的な拠点を上げることは必要なことだと感じる。文化観光推進法にもある拠点と地域をつなぐという点も意識・検討されてはいかがかと感じた。 ⑧について 地域の方との触れ合いの場の創出について具体的なものがあれば教えてください。
教育総務課	⑧について イベントという形ではないが、例えば雲梯が何回できるか等、地域の方が見守りながら使用している学校もある。こうした学校の先生だけでなく、地域の方々から教具遊具を用いて、子どもと触れ合う場を創出していきたい。
文化振興課	⑤⑥について 今年は山城サミットを開催する。歴史民俗資料館を中心に、周辺の文化財を周遊するイベント等を地域の方で行う予定である。こうしたイベント進めたいしながら活性化を図っていきたい。
委員	⑧について 鉄棒が新しく設置されたが、設置後も使えない期間が非常に長かったということを知っている。工事完了までの流れもあるかと思うが、出来上がったものを順次使用できるようになれば良いと感じた。
教育総務課	工事完了等の流れ上であるが、大変申し訳なく思っている。今のご意見も踏まえながら工事の進捗を進めるように考慮していきたい。
学校教育課 (⑨～⑪) 産業支援センター (⑫)	⑨小規模校合同学習実施事業 ⑩中高連携学力育成推進事業 ⑪理数系人材育成協働事業費<島根大学> ⑫理数系人材育成協働事業費<松江高専> の取組内容、成果、今後の事業展開について資料 1 のとおり説明。
委員	⑪について 松江高専はインターンシップを行っているようだが、島根大学ではいかがか。

	また、インターンシップの件数を増やしていくための、今後の展開について教えていただきたい。
産業支援センター	島根大学のインターンシップについては、別事業の「益田市版『ツナガル』事業」で実施している。こちらでは、企業のインターンシッププログラムの作成支援も行っており、島根大学だけでなく広島方面も含めて情報発信等を行っているが、企業と学生のマッチングに課題があると感じている。そういった課題を認識しながら、関係機関と連携して努めていきたい。
委員	⑨について 全国学力学習状況調査における「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」の問いの肯定的回答が69%とあるが、これは高いのか教えていただきたい。
学校教育課	我々としては、80%以上の数字を出したいという思いはあるものの、それに達していない状況。 これまでの事業の実施状況を踏まえながら、必要に応じて内容を変えていくなどしていきたい。
委員	前回と比較してこれだけ増えたというのが分かるようになると良いかと思う。また、今後、肯定的な意見が更に増えれば良いと感じる。
委員	⑨について 小規模校合同スポーツ交流会は定期的に行っているのかという点、また、それらがチームを組んで何か取り組んでいるかという点について、教えていただきたい。 ⑩⑪について 理系科目を対象としている理由を教えていただきたい。
学校教育課	⑨について 交流会そのものは年1回の開催だが、それに向けての事前の学校間の交流をオンラインで積み重ねて本番を迎えている。元々この交流会は、それまで市内にあったサッカー大会に、だんだん小規模校が参加できなくなったという経過があり、それに代わる機会として始まったもの。小規模校6校で合同チームを作って大会に参加という状況に現在はなっていない。 ⑩⑪について 島根大学も理系人材の育成を掲げており、これと連携する形で事業を実施している。 市全体としては理系人材の育成にのみ特化している訳ではなく、様々な事業がある中の一つとして、この事業があるのご理解いただければと思う。
観光交流課 (13) 危機管理課 (14) DX推進課 (15) 政策企画課 (16)	⑬観光客誘致支援事業 ⑭防災備蓄品整備事業 ⑮窓口改革推進事業 ⑯益田市版「ツナガル」事業 の取組内容、成果、今後の事業展開について資料1のとおり説明。
委員	⑯について オンラインでつながるに関して、益田市出身の学生の総数について、基本的に全て把握しているのかという点と、東京大阪拠点の関係で、益田関西若者会の設立の準備・検討とあるが、進捗具合について教えていただきたい。
政策企画課	益田市出身の学生の総数については把握している。 つながること（LINE登録）が出来ていない学生とどうつながっていくのかが課題であり、現在具体的なものは示せないが、二十歳の集いなどを利用し、周知していきたい。
協働のひとづくり推進課	益田関西若者会については、小規模な形でスタートしていきたいと考えている。大阪拠点については県のモデル事業ということもあり、令和7年度までの事業となっているが、こういった拠点が令和7年度以降もあるべきではないかと大阪に居住している学生たちが考えており、自分たちでコミュニティを設立

	できないかと協議されている段階。市として、ここに予算を付けてという所には至っていないものの、可能な範囲で支援していきたいと考えている。
委員	⑯について つながりたいと考えているのは大人側、行政側というふうに感じているので、逆に子どもたちにとって、つながりたいと思うべき情報発信が必要なのではないかと思う。 隠岐の例だと、県外に出た人がつながり続けたいと思うのであれば、オンラインの中で市政に意見できるというような取組も聞いている。何かそうしたつながって良かったと思える内容の検討が必要だと思うがいかがか。
政策企画課	高校卒業後に一定期間、市外へ出てしまうと、いつ戻ってくるか分からない。そういった中で、益田市としては「ひとづくり」を通じて郷土愛を育む取組を中心に行っているところ。郷土愛を醸成することで、市外へ出た後も、益田市へ思いをはせてもらえるような形で、オンラインで適切な情報を発信していきたい。
(2)「令和 5 年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業」の検証について	
事務局からの説明（資料 2） ○「令和 5 年度デジタル田園都市国家構想交付金活用事業」の検証について ・令和 5 年度は島根県が作成した地域再生計画「高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト」に基づき 8 事業を実施した。 ・令和 3 年度と令和 4 年度に益田市の地域再生計画「中世益田の歴史を活かしたまちづくり館（仮称）を拠点とした人材育成・確保プロジェクト」により、拠点整備タイプの交付金を活用「益田市立歴史文化交流館（れきしーな）」を整備し、令和 5 年 4 月 1 日より開館した。 →拠点整備タイプの交付金を活用した場合、施設の供用開始翌年度から設定した K P I の検証が必要となる。 なお、議題（1）と重複している事業の説明は割愛させていただく。	
協働のひとづくり推進課 （①～②） 文化振興課 （③） 観光交流課 （④）	①未来の担い手育成事業（資料 2：(2) ①-1～①-3） ②公民館管理・拠点化推進事業（資料 2：④） ③歴史文化交流館企画展示事業（資料 2：⑨） ④歴史文化交流館管理運営経費（資料 2：⑩-1～⑩-3） について、資料のとおり説明。
委員	④について 資料 2：⑩-2 と⑩-3 について、いずれも目標指標と事業検証に記載されている「課題・対策」が合致していないと思う。 案内標識の設置だけでは、指標にある収益額の増額は見込めないため、どのような取組を今後行うかを記載すべきではないか。 また、観光体験コンテンツ数についても、口頭で説明のあったコンテンツ創出に向けたミーティング・研修を行っている事を「現状・課題・対策」へ記載すべきだと考える。
観光交流課	ご指摘の通り修正する。
(3) その他・閉会	
事務局	次回は令和 5 年度の各事業について審議していただくことになる。引き続き積極的なご意見をお願いしたい。